

窪田議員（自民議連）

令和3年10月1日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）これからの県立図書館が果たす役割について

図書館は、誰もが学びたいと思ったとき、必要な情報や知識を得ることができ、新しいことに挑戦できる「生涯にわたって学ぶ」ための重要な施設であり、学びのセーフティネットの拠点である。従来の図書館の枠組みにとらわれず、県民の誰もが、ワクワクするような学びに出会い、新しい自分に出会うことができるような、広島県オリジナルの新しい県立図書館の在り方について、教育長の所見を伺う。

（答）

昨年度策定いたしました「教育に関する大綱」におきましては、本県教育の目指す姿として、一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりの実現を掲げたところでございます。

この中で、図書館は、住民の身近にあって、生涯にわたって、人々の学びを支援する極めて重要な社会教育施設であると考えております。

県立図書館の果たす役割につきましては、市町立図書館との役割分担を図って、

- ・ 専門性の高い資料や郷土資料の収集の充実に加え、これらの資料を活用した展示や大学等と連携した公開講座を実施して、その価値を発信すること
- ・ 市町の図書館を窓口とした「物流」制度の充実を図ること

などを通じて、県立図書館の知の財産を、広く県民の皆様に活用していただき、県民の皆様の学ぶ意欲を喚起することにあるものと考えております。

また、学校に居ながらにして、専門性の高い資料を活用した探究学習が行えるよう、学校のニーズに応じた図書の貸し出しを行う外、教員を対象に効果的な図書の活用に向けた研修を行うなど、「学びの変革」の推進への貢献も重要な役割であると考えております。

一方、コロナ禍におきましては、人と人との接触機会の低減や、外出の削減が求められる中で、緊急事態宣言下においてもインターネット予約貸出を継続するなど、県民の皆様の読書活動の支援に取り組んでまいりました。

加えて、電子書籍制度を新たに導入して、タブレット端末等による自宅で

の読書活動を可能としたところ、心のケアや癒しに関する書籍の貸出件数が多い傾向にあり、コロナ禍における県民の皆様の心のケアにも寄与できたのではないかと考えており、今後とも、従来の枠組みを超えた取組にも果敢にチャレンジしてまいります。

こうした県立図書館ならではの役割を発揮することで、誰もが学びたいと思ったときに、必要な情報や知識を得ることができる「広島オリジナルの県立図書館」として、乳幼児期から学齢期、社会人まで、全ての県民の皆様の学びを支えてまいりたいと考えております。